

第一中学校区の適正配置案

(1) 第一中学校区を基本とした適正配置案

案名称	現状の課題	学校の適正配置までの動き	統合後の学校の位置	(新)小学校の中学校区	将来的な学校の適正配置案		
					配置図	メリット	デメリット
校区変更案1	① 長宝寺小学校の小規模化 ② 学校施設の老朽化 (特に第一中学校、 交野小学校) <small>※②については、学校の適正配置を検討する際に、校区変更や学校統合などの時期の検討に関わりがあるものの、施設の改修については、教育委員会にて、今後の学校施設の維持・管理等に係る計画を策定する予定である。</small>	私部西(現、交野小学校区の地域)を、長宝寺小学校区へ校区変更	—	—	別紙「校区変更案(1)」	<ul style="list-style-type: none"> 短期～中期的に、長宝寺小学校は適正規模を維持する見込みである。 校区変更対象地域の通学距離は大きく変化しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的には、長宝寺小学校は再度小規模化するおそれがある。 交野小学校の児童数・学級数が減少する。
校区変更案4		長宝寺小学校の周辺(現、交野小学校区の地域)の一部を、長宝寺小学校区へ校区変更 【例】私部西(現、交野小学校区の地域)、私部3丁目、私部6丁目を、長宝寺小学校へ校区変更	—	—	別紙「校区変更案(4)」	<ul style="list-style-type: none"> 交野小学校、長宝寺小学校ともに、長期的に適正規模を維持する見込みである。 校区変更対象地域の通学距離は大きく変化しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区等の境や地形地物での校区変更となっていないため、地域コミュニティに大きな影響を与えるおそれがある。 交野小学校の児童数・学級数が減少する。
学校統合案1		交野小学校・長宝寺小学校を統合	交野小学校敷地	—	別紙「学校統合案(1)」	<ul style="list-style-type: none"> (新)小学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) 旧給食センター跡地を活用すると、大きな敷地面積を確保できる。(24,947㎡) (学校統合案2と比較して)小中学校間の距離が近いので、小中一貫教育を行う上で、教職員や児童生徒の移動がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.9km)
学校統合案2		交野小学校・長宝寺小学校を統合	長宝寺小学校敷地	—	別紙「学校統合案(2)」	<ul style="list-style-type: none"> (新)小学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) 	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.4km) (学校統合案1と比較して)小中学校間の距離が遠いので、小中一貫教育を行う上で、教職員や児童生徒の移動がしにくい。 敷地が第一中学校区の端にあり、地域の拠点となりにくい。
小中学校統合案1		交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合	第一中学校敷地	—	別紙「小中学校統合案(1)」	<ul style="list-style-type: none"> (新)小中学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) 小中一貫教育の成果を認識しやすい。 近くにある私部公園や総合体育施設を活用できる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.7km) 敷地面積が比較的小さい。(17,490㎡)
小中学校統合案2		交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合	交野小学校敷地	—	別紙「小中学校統合案(2)」	<ul style="list-style-type: none"> (新)小中学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) 小中一貫教育の成果を認識しやすい。 近くにある私部公園や総合体育施設を活用できる可能性がある。 旧給食センター跡地を活用すると、大きな敷地面積を確保できる。(24,947㎡) 	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.9km)
小中学校統合案3	交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合	長宝寺小学校敷地	—	別紙「小中学校統合案(3)」	<ul style="list-style-type: none"> (新)小中学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) 小中一貫教育の成果を認識しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.4km) 敷地が第一中学校区の端にあり、地域の拠点となりにくい。 	

(2) 中学校区をまたいだ適正配置案

案名称	現状の課題	学校の適正配置までの動き	統合後の学校の位置	(新)小学校の中学校区	将来的な学校の適正配置案	
					配置図	メリット
校区変更案2	<p>① 長宝寺小学校の小規模化</p> <p>② 学校施設の老朽化 (特に第一中学校、交野小学校)</p> <p>※②については、学校の適正配置を検討する際に、校区変更や学校統合などの時期の検討に関わりがあるものの、施設の改修については、教育委員会にて、今後の学校施設の維持・管理等に係る計画を策定する予定である。</p>	松塚地区(現、郡津小学校区)を、長宝寺小学校区へ校区変更	—	—	別紙「校区変更案(2)」	<ul style="list-style-type: none"> ・長宝寺小学校の小規模状態の解消にはつながらない見込み。 ・中学校区をまたぐ校区変更である。(地域コミュニティへの影響が大きい。)
校区変更案3		長宝寺小学校の周辺(現、郡津小学校区の地域)の一部を、長宝寺小学校区へ校区変更	—	—	別紙「校区変更案(3)」	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の引き方次第で長宝寺小学校を適正規模とすることは可能である。 ・学校間の距離が近接しているため、校区変更可能な地域に限られる。(郡津1丁目の一部、郡津4丁目の一部、幾野1丁目の一部等) ・中学校区をまたぐ校区変更である。(地域コミュニティへの影響が大きい。)
学校統合案3		長宝寺小学校(第一中学校区)・郡津小学校(第二中学校区)を統合	長宝寺小学校敷地 または 郡津小学校敷地	第一中学校区	別紙「学校統合案(3)」	<ul style="list-style-type: none"> ・(新)小学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) ・統合対象校が近接しているため、小学生の通学に大きな影響が出ない。 <p>【第一中学校区の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が2kmを超える地域がある。(小学生：ほぼ変化なし)(中学生：最長約2.6km) ・第一中学校との距離が遠いため、小中一貫教育を行う上で、教職員や児童生徒の移動がしにくい。 <p>【第二中学校区の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二中学校施設の位置する幾野地区は第二中学校区とする必要があるが、幾野地区を倉治小学校区とした場合、倉治小学校が適正規模を上回る見込みである。
学校統合案4		長宝寺小学校敷地 または 郡津小学校敷地	第二中学校区	別紙「学校統合案(4)」	<ul style="list-style-type: none"> ・(新)小学校では、平成52年度まで、適正規模を維持する見込みである。(課題①が解消される。) ・統合対象校が近接しているため、小学生の通学に大きな影響が出ない。 <p>【第一中学校区の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一中学校の小規模化が進む。(第一中学校区は、第一中学校と交野小学校の1小1中となる。) ⇒倉治小学校区・岩船小学校区からの校区変更は難しく、小規模状態の解消が難しい。 <p>【第二中学校区の課題】</p>	